

# 二ホンジカから見える世界

## 神奈川県は どこで暮らして いるのでしょうか？



江戸時代には現在の横浜駅近くや三浦半島でも見られました。しかし、人間が農地や市街地を拡大したことで山に追いやり、今は丹沢山地を中心に生息しています。昔、日本の山にはオオカミがいて、シカを獲物としていましたが、オオカミが絶滅し、生態系のバランスが崩れました。その後、人間が長い間シカを禁止して保護していたため、いまシカが爆発的に増えています。

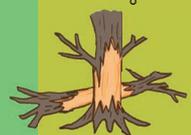
神奈川県には二ホンジカが生息していますが、今、丹沢山地を中心にシカを取り巻くさまざまな問題が起きています。何が問題なのか、一緒に考えてみましょう。

### シカが増えすぎると何が問題ですか？

シカは1日5kg以上の植物を食べます。草や樹皮を食べつくされた山は、表面が露出して土壌が流出するなど、土砂災害が起りやすくなります。また、シカが食べ物を探して人間社会に接近することで、農作物への被害が増えています。

### シカと人間が共存するにはどうしたらいいのでしょうか。

農作物に被害がでないよう電気柵などを設置するほか、森林の整備や、シカの数进行调整する取り組みを行っています。シカも人間も同じ生き物です。生態系のバランスを保ちながら、お互い安定して暮らせる取り組みが必要です。



2020年度神奈川県のおよそ2,400万円がシカによる農作物被害額

## 生物多様性とは なんですか？

すべての生きものは食物連鎖や共生の関係など、他のたくさんの生きものとのつながり、支え合って生きています。これを生物多様性といいます。しかし今、人間の活動による影響で、日本の野生動植物の約3割が絶滅の危機に瀕しています。生きものはいったん絶滅してしまうと、二度と地球上に戻ることはありません。



人間には陸の豊かさを守る責任があります。そのため、私たちは便利な生活をするために、知らないうちに森林を破壊していないか、生きものを絶滅に追いやっていないか考え、自分の行動や生活を見直してみましょう。

## 「外来種」問題について考えよう

横浜でアライグマやハクビシンを見かけることがあります。鎌倉ではタイワンリスが木々を駆け回っています。人間によって外国から持ち込まれ、野生化した動物は「外来種」と呼ばれます。種によっては農作物を荒らし、日本に昔からいる生きものたちのエサや住み家を奪うなど、日本の生態系に悪影響を与えます。



外来種による被害を防ぐには **入れない** **捨てない** **拡げない**

神奈川県立地球市民かながわプラザ  
あーすぷらざ  
このかべ新聞はあーすぷらざのホームページからもダウンロードできます。